



村上先生は、鏡が丘特別支援学校（浦添市）から2015年に沖縄盲学校へ赴任。2021年11月には第6回琉球新報教育賞を受賞されました。

「赴任前の学校では、身体に障害がある生徒を教えていました。今までは授業の際、視覚を使った観察が中心になっていましたが、盲学校ではそれが通用しません。いくら言葉で説明しながら授業をしても、生徒たちへ伝わっていないことは、生徒の表情で感じ取ることができました。そこで、百聞は体験にしかず！をキーワードに、小学部から高等部までの幅広い年齢の交流が行える自然観察サークルを立ち上げました。森や川の音やにおいなど五感をととした体験観察により、今まで自発的に意見が言えない生徒から自分の意見が出てきたり、そこから生徒・先生同士の意見交換が生まれました。目が見えない分、私たちが考える常識とは違う観点からの意見が出たり、教科書どおりの答えではない正解が出てくるとも、私自身も発見と喜びの連続です。盲学校は、小学部から高等部がひとつの校舎で学んでいるため、学部を超えた交流が行える素晴らしい環境です。今後は、自然観察会をとおして、地域や外部との繋がりを深めたり、学部や障害を超えた交流を重ね、連続性のある豊かな学びの環境を作り、増やしていきたいです」と村上先生は教えてくれました。

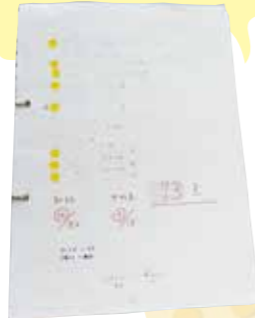
**廊下は静かに歩かない!?**



盲学校の廊下のルール

目が見えない人にとって無音の世界は、どこにいて何があるのかヒントが全くない状態です。私たちは学校で「廊下は静かに歩く」と習いますが、盲学校では「適度な足音を出して歩く」ことが優しさに繋がります。また、すれ違うときは「後ろから追い越しますね」「前から通ります」など声かけをしてあげましょう。

**盲学校のテスト**



盲学校のテストは点字です。回答を点字で記載、採点はシール（左に貼られている黄色いもの）で行います。○は丸いシール、△は丸いシールを半分に切ったもの、×はシールなしとなっています。点字には、五十音・アルファベット・数字しかないので、授業のノート作成は膨大な枚数になるとか・・・。

**宮城 かし子さん**

沖縄盲学校卒業生



生まれつき全盲の宮城さんは、幼稚園から中学部まで盲学校で学び、普通高校へ進学。東京での生活後、沖縄に戻り3年前から盲導犬のソルベと生活しています。現在は南風原町内の小中学校で、盲導犬ユーザーとしての講話を行っています。

一緒に歩くのはとっても楽しい時間。しっぽを振りながら歩くソルベ。

「東京は交通の便もよく、一人で生活していて困ることがありませんでした。沖縄に戻ったら真逆の生活になり、外出することが面倒くさくなり、引きこもりがちになりました。もっと外へ出たい！そんな思いから、盲導犬との生活を考えるようになりましたが、命を預かる責任の重さや、私のために犬に仕事をさせることへの罪悪感から、すぐに行動うつすことはできませんでした。覚悟を決め、東京の訓練所にて1か月の間、犬の世話のやり方・犬の生態について・盲導犬との歩き方などを朝から晩までみっちり学びました。その後、適合テストを受け、無事合格することができ盲導犬ソルベとの生活が始まりました。盲導犬が道案内をしているとおもわれることが多いのですが、実際は人間が道を覚え、犬に指示を出して歩いています。盲導犬に出来ることは、まっすぐ歩く・段差を教える・曲がり角を教える・人や障害物を教えるなど限られていますが、このサポートのお陰でスムーズな歩行が可能になります。盲導犬との生活により行ける場所は増えましたが、入店拒否など社会の理解には課題がまだあります。少しの理解が広く広がり、自由に歩ける社会を願って、これからも盲導犬や視覚障害の啓発活動など自分にできることを頑張りたいです」と宮城さんは教えてくれました。

**盲導犬から4つのおねがい**

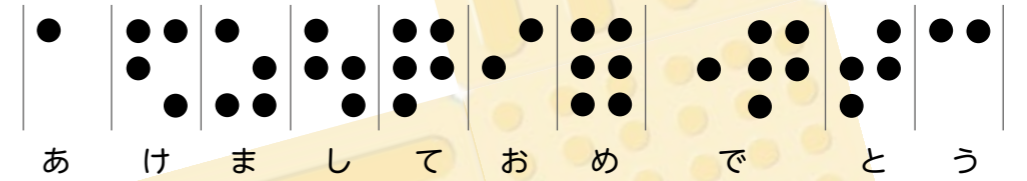
1. 食べ物を与えない
2. 目をあわせない
3. 触らない
4. 話しかけない



身体障害者補助犬法では、盲導犬ユーザーに対して盲導犬の適切な管理が義務づけられています。体調管理もそのひとつで、与える食べ物はドッグフードのみと決まっています（おやつも禁止）。アレルギーがある犬もいるため、決まったもの以外の食べ物を食べると、体調を崩す危険性もあります。盲導犬はしっかりと訓練された賢い犬です。しかし、家の中では普通の犬のように飼い主に甘えたり、元気に走り回ったりします。外出時の盲導犬は、盲導犬ユーザーを守るために集中しています。目をあわせたりすると集中力が切れ、盲導犬から普通の犬へ戻ってしまい、サポートできなくなります。盲導犬と盲導犬ユーザーの安全確保のためにも食べ物を与えない・目をあわせない・触らない・話しかけないを守ってください。みなさんの理解と協力が安心・安全な歩行に繋がります。

**何点字って**

目の不自由な人のための文字で、縦3点、横2点の6点の組み合わせで構成されています。1825年にフランス人のルイ・ブライユによって考案されました。



**とは視覚障害**

見えにくい、見えないなどの理由により日常生活を送る上で、難しさを感じている状態をいいます。メガネやコンタクトレンズを着用しても、ある一定レベル以上の視力が出ない、視野が狭いなどで足下の段差に気づかずにつまずいたり、人や物にぶつかることがあります。

**どんな見え方なの**

視力障害の場合：白くかすんで見える、全体がぼやけて見える  
視野障害の場合：見える範囲が狭くなる、全体的に見えないところがある



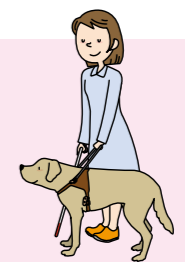
障害のない人



視力障害のある人



視野障害のある人



**南風原町には133人の視覚障がい者がいます。**  
(2021年11月末現在)

**沖縄県立沖縄盲学校**

南風原町字兼城 473 番地

創立 100 周年を迎えた沖縄盲学校は、創立者 たかはしふくじ 初代校長の高橋福治氏の思いである「視覚障がい者が働き、自律する力を身につける教育を根づかせ、広めること」という言葉を大切に、視覚障がい者の社会的自律に向けた教育を行っています。学校には、幼稚部、小学部、中学部、高等部、高等部専攻科があり、計 43 人の児童・生徒が学んでいます。

「私たちが一番大切にしていることは、見る手をつくるということです。視覚に障害を持った人は、見えない分、手を使って全体の形や細部の情報を把握する必要があるため、色んなものを触ることに慣れさせなければいけません。決して無理強いをせず、本人の恐怖心が無くなるよう、自発的に触れるようサポートすることを心がけています」と高等部 学部主事上地先生は教えてくれました。

**町の手**

**手で読む心**

1月4日は世界点字デー。  
この日を機会に視覚障がい者について理解を深めてみませんか。